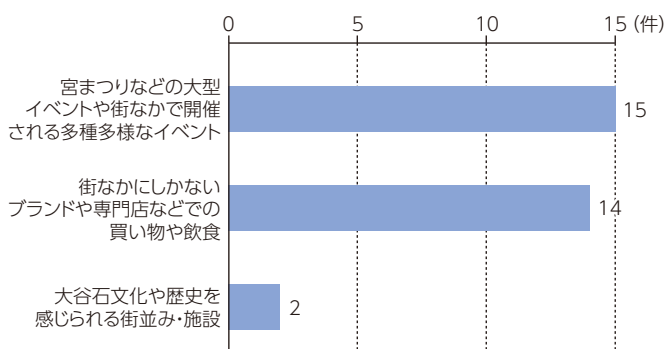




前回の広報うつのみやプラス「街なかのにぎわい復活へ」に対して、40人の市民の皆さんからご意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) あなたが街なかに行く目的やきっかけは何ですか？
(当てはまる番号に○を付ける)



■その他の主なご意見

- ▽人が多く、活気がある街なかへ行くと元気がもらえる(下栗町・30代)。
- ▽街なかに住んでいるため、ランチやカフェでゆっくり過ごすために外出する。
- ▽毎週・毎月必ず行われるイベントが楽しみ。歩きながらの発見も子どもと一緒に楽しめる。
- ▽若い頃以来、街なかへ行っていないが、活気が戻ったことを知り、行きたくなった(築瀬町・50代)。
- ▽街なかには、バスで買い物やランチ、勉強会などに来ている。同年代の人々と交流できるお店が欲しい(川田町・70代)。
- ▽LRTの導入に伴い、公共交通を利用し、お酒を楽しむスポットの開発をしてもらいたい(陽東・70代)。

(2) 今後、さらに街なかのにぎわいを作り出すために、あなたが必要だと思うものは何ですか？

- ▽街並みを美しくすること(70代)。
- ▽餃子祭りの年2回の開催。
- ▽餃子祭り以外の目玉となる食のイベントの開催(金田町・30代)。
- ▽東京都の戸越銀座のような生活に欠かせない小売店の誘致(中央・30代)。
- ▽埼玉県の川越のように、食べ歩きができたり、お土産が買える密集地をつくる(東峰町・30代)。
- ▽ディスカウント店が多くできるとよい(駒生町・40代)。
- ▽老人施設や学校関係施設が街なかに立地することで、自然と人の足が向かうようになる(江曾島町・60代)。
- ▽多くの人とコミュニケーションが取れるイベントの開催。足が丈夫な高齢者が多いので、とにかく外に出る機会をつくってほしい(川田町・70代)。
- ▽広い無料の駐車場。
- ▽JR宇都宮駅と東武宇都宮駅をLRTでつなぐ(築瀬町・50代)。

前回の広報うつのみやプラス「街なかのにぎわい復活へ」の概要



今、街なかのにぎわいは？

本市の顔として、市全体の発展に大きな役割を担ってきた中心市街地。自家用車の保有率が高い本市では、近年、人の流れなどが郊外の大型ショッピングモールへ移っていきました。一時は消えていた「街なかのにぎわい」ですが、ここ数年、イベント広場の整備やオープンカフェなど、さまざまな事業の実施により、数多くのイベントが開催されるとともに、新たな店舗の出店が相次ぎ、「週末」や「夜間」を中心にかつての活気を取り戻しつつあります。

これからは「平日昼間」の強化がキーポイント

今後課題となってくるのが、「平日昼間」のにぎわいです。現在、街なかではマンションの建設が進み、日常生活を送る人が増えてきていることから、住む人が快適に過ごすための取り組みや、街なかに来るすべての人も憩えるような空間づくり、歩いてみたくなる仕掛けづくりが「鍵」となってきます。今後は、ユニオン通り・オリオンスクエアの整備や、土地の有効活用方策の検討などを進め、魅力あるエリアやスポットが数多く集まる「宇都宮の顔」としてふさわしいまちに近づけていくことが必要です。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年に数回編集します。

郵便はがき



3 2 0 8 7 4 0

差出有効期間
2020年8月
15日まで
【切手不要】

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。